

くしまっ子☆

形と組手の両立て
目指せ全国大会

空手との出会いは4歳のとき。
いとこに誘われたのがきっかけで、串間松濤館の門をたたきました。週2回の道場での練習では、小



常に真っ向勝負で挑みます



23. 和田 春人くん

南さくら認定こども園年長(6歳)。4歳から串間松濤館で空手を始める。昨年開催の県少年少女空手道選手権、九州黒潮少年少女空手道大会の形と組手の両部門で優勝。

空手の競技には、相手がいることを想定し、一人で演舞する「形」と、1対1で技を掛け合い相手と対戦する「組手」の2種類があります。南さくら認定こども園に通う和田春人君は、昨年11月に岡山市で開催された「第18回九州黒潮少年少女空手道選手権」の形、組手の両部門で優勝を果しました。

空手との出会いは4歳のとき。いとこに誘われたのがきっかけで、串間松濤館の門をたたきました。週2回の道場での練習では、小

さな体で小学生に交じり組手や形の練習に励み、家ではステップの練習やバランスボールを使った体幹トレーニングをしたりと、努力を重ねます。

その努力が実を結んだのが昨年5月に出場した県大会。形と組手の両部門で優勝を果たし、さらには11月の大会でもダブル優勝を勝ち取りました。幼児・小・中学生が出場したこの大会で両部門を制したのは2人だけという結果が、形と組手の両立の難しさを物語っています。

幼児の部は全国大会が開催されないため、小学校入学後の全国大会出場を目指し、新しい形や組手の練習にも熱が入ります。「目標は全国大会でベスト16に入ること。そのためにもまずは5月の県大会で、形も組手も優勝できるよう頑張りたい」と春人君。小さな体から繰り出される技を武器に、全国舞台へ新たな一步を踏み出します。

地域おこし協力隊

活動日記

vol.23

ジビエ向け 焼き肉のたれ
商品名「山の恵みだれ」



高鍋町の農業大学校で開催している食品加工人材養成塾に参加してきました。テーマは、「地元農産物を活用した商品開発! ~焼き肉のタレを企画してみよう!」というお題だったので有名店の戸村、エバラ、叙々苑などの焼き肉のタレを試食して、成分などの情



報を収集して試作案を考えます。
焼き肉といつても、牛、豚、鶏、猪、鹿、ジンギスカンなどいろいろ。味も調理方法も違うので何か1つに特化して作ってみてはどうかということになり、今、自分が原木椎茸栽培にガッツリはまっているので、「山」をテーマに猪、鹿肉に特化して椎茸の出汁の効いたタレを試作することになりました。さらに原木キクラゲもいれて食感をよくして、山の恵みをたっぷりにしてと、アイデアだけが進みます! そして隠し味にヘベスやヤーコンなどをいろいろ入れて分量を調整してきました。辛みが良く効いた味になっています。

これ獣友会やジビエ好きな方々などにも試食していただき意見を聞いてみたいと思



次代へつなぐ千野棒踊り

世代を超えて一緒に

1973年頃から約30年間途絶えていた踊りは2003年、本城農民の防衛技術として江戸時代に生まれ、黒装束に鉢巻、たすき帯を身に付け、6人一組で6尺・3尺の棒を使って舞う勇壮な踊りです。

1967年から5、6年ほど再興に取り組んでいた稻本さんは「復活の力になれれば」と演舞指導の依頼を快諾。「始めた当時は苦労もあって、記憶の糸をたどりながら、当時のメンバーらと試行錯誤を繰り返す日々。生徒と一緒に毎日練習を重ね、3週間ほどかけてようやく形にまとめ上げた」と当時を振り返ります。

中学生や高校生、大人など約20人が集まり、7月に練習を再開。「中学生のときは、上級生が下級生に教えるのが伝統だったが、今は未だことがきつかけて復活を遂げ、同校での伝承活動が始まりました。1967年から5、6年ほど再興に取り組んでいた稻本さんは「復活の力になれれば」と演舞指導の依頼を快諾。「始めた当時は苦労もあって、記憶の糸をたどりながら、当時のメンバーらと試行錯誤を繰り返す日々。生徒と一緒に毎日練習を重ね、3週間ほどかけてようやく形にまとめ上げた」と当時を振り返ります。

中学生や高校生、大人など約20人が集まり、7月に練習を再開。「中

学生のときは、上級生が下級生に教えるのが伝統だったが、今は未だことがきつかけて復活を遂げ、同校での伝承活動が始まりました。

1967年から5、6年ほど再興に取り組んでいた稻本さんは「復

活の力になれれば」と演舞指導の依頼を快諾。「始めた当時は苦労もあつて、記憶の糸をたどりながら、当時のメンバーらと試行錯誤を繰り返す日々。生徒と一緒に毎日練習を重ね、3週間ほどかけてようやく形にまとめ上げた」と当時を振り返ります。

中学生や高校生、大人など約20人が集まり、7月に練習を再開。「中

学生のときは、上級生が下級生に教えるのが伝統だったが、今は未だことがきつかけて復活を遂げ、同校での伝承活動が始まりました。

1967年から5、6年ほど再興に取り組んでいた稻本さんは「復

活の力になれれば」と演舞指導の依頼を快諾。「始めた当時は苦労もあつて、記憶の糸をたどりながら、当時のメンバーらと試行錯誤を繰り返す日々。生徒と一緒に毎日練習を重ね、3週間ほどかけてようやく形にまとめ上げた」と当時を振り返ります。

中学生や高校生、大人など約20人が集まり、7月に練習を再開。「中

学生のときは、上級生が下級生に教えるのが伝統だったが、今は未だことがきつかけて復活を遂げ、同校での伝承活動が始まりました。

1967年から5、6年ほど再興に取り組んでいた稻本さんは「復

活の力になれれば」と演舞指導の依頼を快諾。「始めた当時は苦労もあつて、記憶の糸をたどりながら、当時のメンバーらと試行錯誤を繰り

り返す日々。生徒と一緒に毎日練習を重ね、3週間ほどかけてようやく形にまとめ上げた」と当時を振り返ります。

中学生や高校生、大人など約20人が集まり、7月に練習を再開。「中

学生のときは、上級生が下級生に教えるのが伝統だったが、今は未だことがきつかけて復活を遂げ、同校での伝承活動が始まりました。

1967年から5、6年ほど再興